

一般社団法人 京都わかくさねっと
2021年度事業報告
(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

1. 概要

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化し、少女の社会的孤立や貧困、暴力被害が深刻化するなか、「支援に繋がっていない少女をネットワークに繋ぐ」当法人の活動は、社会の中で重要な役割を果たした1年でした。

児童自立援助ホームやホテルと連携した少女の居場所「わかくさカフェ」を5カ所に増設。それに加え繁華街や地域からの要請でのわかくさカフェ出張版や、深夜のアウトリーチ等、さまざまな試みを行ない、SOSが届いていない幅広い層へ積極的にアプローチを行いました。

寄り添い支援では、保護観察対象者の寄り添いや、他団体や行政からの依頼を受けた少女の短期宿泊を提供し、支援のニーズに繋がりました。コロナ禍で処遇の困難な少女が増える現状を、さまざまな団体と連携し、少女たちが複数の居場所や支援者間を行き来することでパイプを太くし、支援者がネットワークを組んで見守る試みもなされました。

2021年度は法人のトピックスの年でもありました。休眠預金事業に採択され、念願の常設の居場所「わかくさりビング」を開設することができました。さまざまな困難や試行錯誤を経て、「少女たちが主体となって運営する」「支援や相談場所ではない居場所」という方向性を固め、少女2名が代表となり組織の再編をしました。

一方で居場所づくりの活動は、個人的センシティブな問題が多く、支援する側の精神的負担も大きいことや、活動の認知度の高まりに準じてニーズが顕在化していく中で、重症度の高いニーズに対応するための専門的かつ安定的スキルが求められることがわかりました。従来のボランティアを主とする活動ではなく、組織化仕組化の重要性と緊急度を実感し、早急に対応を進めることとなりました。

2021年度活動事業

- ・休眠預金 新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業
「少女の避難基地と夢を育てる事業」(資金分配団体：信頼資本財団)
- ・京都市生きづらさを抱える若年者の居場所づくり等支援事業
「つながる・よりそう・そだてる事業」
- ・左京区まちづくり活動支援事業「わかくさカフェ左京区事業」
- ・上京区民まちづくり活動支援事業「少女の避難基地わかくさカフェ上京区事業」
- ・みなみ力で頑張る！区民応援事業「少女の居場所わかくさカフェ南区事業」
- ・京都府女性活躍応援事業
「参加型ディスカッションと少女展—コロナ禍の生きづらさと居場所づくり」

- ・京都府地域交響プロジェクト「少女の繋がり場の場づくりと地域での包摂支援事業」
- ・読売光と愛の事業団子ども育成支援事業
- ・赤い羽根「いのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～」

2021年度活動回数

- 210回（わかくさりビング78日、カフェ126日、アウトリーチ他13日）
- ・わかくさに繋がった少女 延べ896名
- ・関わったスタッフ（少女スタッフ含む）延べ786名
- ・NINIROOM日帰り部屋利用 45名
- ・NINIROOM宿泊利用 18日
- ・寄り添い支援 対応時間 279時間

2. 事業実施内容

2-1 少女の避難基地と夢を育てる事業（わかくさりビング事業）

地域のなかに安全な居場所をつくり、少女が安心して話をできる環境と食事の提供を行なった。

②第1期（京都市中京区六角猪熊町町家）

期間：2021.10.1～2021.12.26（計52日間）

来所少女：214人

全体参加者：402人

③第2期（京都市上京区相国寺門前町烏丸ビル）

期間：2022.2.1～2022.3.31（計26日間）

来所少女：149人

全体参加者：229人

④スタッフへのケア・相談・寄り添い

- ・専属コーチング 専属カウンセリング

⑤参加型体験講座

- ・ヨガ教室 回数：3回、和菓子作り教室 回数：2回、木工講座 回数：5回

2-2 わかくさカフェ事業

地域の団体や企業と連携し、少女の居場所「わかくさカフェ」を開設した。

①京都YWCA カルーナ

- ・わかくさカフェ 回数：19回、参加少女：106名、全参加者：220名

②hostelNINIROOM

- ・4/1～3/31 計52会開催 少女参加者201名、参加者計526名
- ・わかくさねっとの相談窓口 相談対応時間 114時間

③happiness*café

- ・活動回数：38回 参加者：120名、スタッフ（大学生含）117名

④京都市南青少年活動センター

- ・活動回数 14回 参加者：82名、スタッフ 48名、南地区更生保護女性会会員

⑤亀岡わかくさねっと

連携団体。毎月第4日曜日に居場所を開催した。

2-3 寄り添い支援

①まちの保健室事業（講座）

- ・開催回数 13回 参加者 133名

②まちの保健室事業（寄り添い）

- ・リビング来所者への相談対応 75時間、保護観察対象者への寄り添い 90時間

2-4 支援物資・補助等

- ・来所少女への往復交通費補助 616名
- ・NINIROOMのランチ提供 233名
- ・NINIROOM個室日帰り利用 45名
- ・NINIROOM宿泊利用 18名
- ・お手伝い 157名

2-5 先進的な支援事業【京都市事業】

①繁華街の巡回

対象：繁華街をさまよっている少女、SNS等でつながっている少女

場所：京都市内の繁華街（木屋町、四条河原町、新京極界限）

回数：3日間（6回）

②わかくさカフェ出張版@木屋町

来所者：19名（スタッフ含む）

③京都市山科青少年活動センターでのアウトリーチ

※山科地区更生保護女性会と連携

2-6 講演・普及啓発

①京都市ユースサービス協会との共同事業

- ・『夜のユースセンターモデル事業』の中間報告会 2021
- ・「若者と一緒につくる場の可能性」共同報告会

②京都わかくさねっと活動展

「少女の居場所をつくったら家族ができた展」

③市縁堂 2021 出展

④みんなで学ぼう SDGs

⑤バザールフィエスタ 2021

2-7 情報発信・広報

①メディア掲載等

- ・京都新聞「福祉のページーわたしの現場」(2021.4.)
- ・市民しんぶん(京都市)(2021.7.1)
- ・読売新聞「きょう・人・十色」(2021.8.)
- ・京都新聞

②発行物

- ・わかくさだより vol.2
- ・新リーフレット
- ・少女制作冊子「わかくさりビング活動報告」「いま背中を押して欲しいあなたへ」
- ・少女イラスト入り年賀状
- ・名刺、看板、封筒等
- ・わかくさ活動報告書(報告展配布物)

③SNS、HP等

- ・HP リニューアル
- ・Facebook ページへのリーチ 9654、アクセス 3254、新規イイね 56
- ・Instagram ページへのリーチ 5848、アクセス 2515、新規フォロワー47

④クラウドファンディング

2022年3月22日～2023年3月31日

目標金額 5,000,000 円